

【報告】

新型コロナウイルス感染に関して現時点で一般的に周知されている事項や「外出禁止」などの措置に至った場合のことについては割愛します。

以下の事由により、現時点で主催大会の「開催」を決断するのは時期尚早（＝「中止」とする）であると考えます。

少なくとも以下の事項について十分な準備ができないと考えます。

1. 会場校となる各大学との新型コロナウイルス対策についての申し合わせ事項の確認が充分に行うことができない。
2. 特に更衣室や倉庫の利用およびポスト等の共有用器具に伴う接触感染対策については、授業と兼用する用器具を借用するケースも多いことから、会場校の方針、会場校の所在地等も鑑み、個別に十分な申し合わせが必要と考えられる。
3. 学連および大会関係者から感染者が認められた場合、会場となった施設の消毒が専門業者によって行われる必要がある。これが会場校の授業等に影響なく行える保証はない。費用等が発生する場合には、そのことについての事前の申し合わせなども必要となる。
4. 1. ～3. に関連して、いわゆる「濃厚接触者」の範囲をどうするかについて、学連として主体的なガイドを持つ必要がある。

少なくとも以下の事項について不確定なことが多く、今後の推移を注視する必要があると考えます。

1. マイクロ飛沫による感染リスクが不確定。→マイクロ飛沫の危険度が高いとすると、主審等によるコールにも感染リスク。ダブルスは不可能。
2. 体育館アリーナの感染リスクが不確定。→空間的には広いが天井が高く、空間に対して窓が小さいのが一般的で換気のしにくいものも多く、ウイルスが滞留しやすいとの指摘もある。体育館アリーナでの活動による感染リスクが、一般的な空間と同程度なのか、低いのか、高いのかを注視し、その上での対策が必要と考えられる。
3. 大会開催時の集団規模（どの程度小規模なら可能か）について不確定。→新型コロナウイルスのように新規の感染症が蔓延した場合、一定規模の集団になればリスクが高まるのは当然で、「50名以下なら有効ではないか」という目安で議論されることも多いとのこと。つまり、いわゆる「3密」対策をしたとき、その有効性が期待できるのは「50名以下の集団であれば」という前提があることになる。不確かなことも多いので、注視せざるを得ない。

*複数の医療関係者からご助言いただき作成しました。

*「中止ありき」で検討したものではなく、現在、運営・営業している日本フィットネス産業協会のガイドも参考にしました。別添とします。

*以前の運営状況に戻るまでは、「感染者が出た場合の対応について、会場との申し合わせを確実にしておくこと」、「使用会場の体育館アリーナの構造を確認すること」などの重要性について助言がありました。

*従前以上に、加盟大学、所属学生のモラルに沿った行動の徹底が求められると思います。

*直接の関連事項ではありませんが、「健康診断」が延期されている大学も多いと思われます。今年度は特例的に夏や秋に実施する大学も出るのではないかと思います。このため、今年度の大会を開催できる段階になったときには、出場選手から健康診断受診の有無や大会出場に問題ない旨の署名などをもらうことを検討する必要があるとの指摘もありました。

文責：金子元彦